

令和6年度 立川市立第五小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎よく考え進んで学ぶ子</li> <li>○自分も友だちも大切にする子</li> <li>○正しく判断し行動できる子</li> <li>○体を鍛え最後までやりぬく子</li> </ul>
---------	--

目指す児童の資質・能力	複数の教科や学年全体に共通する取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら学び自ら考える力を育成し、基礎・基本の確実な定着</li> <li>○自他を尊重し心身ともに健康で豊かな人間性の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決型の学習過程を重視した授業改善</li> <li>・様々な教科でお互いの意見を伝え合ったり、認め合ったりする活動の実施</li> </ul>

教科	教科で育成を目指す資質・能力	具体的な取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字等の表記や学習した語彙を自分の書いた文章の中で適切に使ったり日常生活に生かしたりする力を付ける。</li> <li>○目的や意図に応じて資料を使って話したり、自分の考えが伝わるように工夫して書き表したりする力を付ける。</li> <li>○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容の中心を捉えながら聞く力を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙の学習における指導の工夫として、その漢字のもつ意味や派生する語句に興味をもたせるとともに、その語句を使った短文を作るなどの中で反復練習したり声を出して読ませたりする。</li> <li>・文章の構造や使われている語句の役割に着目して正確に話を聞きとったり文章を読んだりする指導を重ねる。目的に応じて話したり書いたりして自分の考えを表出し、児童相互の交流を通してさらに考えを深めることを多くの機会を捉えて行う。</li> <li>・全国学力学習状況調査の結果、正答率が全国平均、東京都平均を上回っていた。一方で話すこと・聞くことに関する問題の平均正答率が、全国平均とほぼ同じであった。目的や意図に応じて日常生活の中から課題を発見する力、資料を集め分類整理する力を付けていく指導が必要である。国語に限らず、総合的な学習の時間や算数など様々な学習場面で資料を用いた発表活動などを丁寧に行っていくことを継続していく。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を身近な問題として捉える力を付ける。</li> <li>○資料を正しく読み取り、分析する力を付ける。</li> <li>○資料を読み取ったことを関連付けたり、活用したりする力を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四方位や地図で場所を確認することを繰り返し指導する。</li> <li>・資料の特性に留意して、そこから分かることを考えさせる等、必要な情報を読み取り分析する場面を多く設定する。</li> <li>・実生活と関わりのある事象や時事問題を、導入として活用する。</li> <li>・読み取ったことを文章や、図、表で表し、関連性を視覚化する。</li> <li>・単元のまとめに、学習したことを生かしたり、自分たちができることを考えさせたりする活動を取り入れる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題文から場面の状況を捉え、その関係を図や式、言葉で表現する力を付ける。</li> <li>○正確な四則演算ができる力を付ける。</li> <li>○既習事項と関連付けて課題を解決する力を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物、半具体物、テープ図、数直線図などを意図的に指導の場面で用いて、意味理解の定着を図る。</li> <li>・補充学習の「ジャンプアップタイム」において、四則演算の技能の定着を図る時間を確保する。</li> <li>・問題、課題把握の場面で既習との違いを明確にする。</li> <li>・集団検討場面で既習と関連付けて説明させることで、既習を生かして考える力を身に付けられるようにする。</li> <li>・全国学力学習状況調査の結果、正答率が全国平均、東京都の平均を上回るものが多かった。しかし、データの活用に関する問題に課題が見られる。グラフから割合を読み取ること、調べたことを落ちや重なりがないように分類整理して、データの特徴を考察することに課題がある。データを分類整理する際、落ちや重なりがないように整理する。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題を見いだす力、根拠のある予想や仮説を発想する力を付ける。</li> <li>○授業を通して学んだことを用いて様々な問題に積極的に取り組む力を付ける。</li> <li>○実験や観察をした結果を生かして考察したりより妥当な考えをつくりだしたりする力を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入時に体験的な活動を充実させたり、生活経験を想起させたりすることで、経験から考えられるようにする。</li> <li>・これまでに学習した内容を単元の導入時に振り返ることで、既習事項と結び付けることができるようにする。</li> <li>・考察を書く際、「実験結果から分かること」を意識して書く指導を行う。</li> <li>・大事な語句を例示するなどして考察するときの基本的な型を指導する。</li> <li>・互いの文章を読み合い、より妥当な考えになるように交流する機会を設ける。</li> </ul>

生活	<p>○観察をするとき、対象物を細かく見て、特徴などに気付く力を付ける。</p> <p>○具体的な活動や体験を通して、自分の気づきを共有し合い、学び合う力を付ける。</p>	<p>・調べることの視点「見る」「聞く」「触る」「嗅ぐ」を示し、授業の中で観察するポイントを明らかにする。</p> <p>・具体的な活動や体験活動を通して、生活を豊かにしようとする態度を養い、気付いたことを記録し、発表したりまとめたりする機会を多くする。</p>
音楽	<p>○楽曲への思いをもち、それを言葉で伝える力を付ける。</p> <p>○楽曲に応じた歌唱技能や演奏技能を身に付ける。</p>	<p>・旋律やリズムの特徴、曲想や歌詞の情景から楽曲へのイメージを十分にもたせる。</p> <p>・音楽を表す言葉の例を掲示し、思いを言葉で表す活動を増やしていく。</p> <p>・基本的な歌唱技能や演奏技能につながる常時活動を行う。</p> <p>・児童がイメージしやすい具体的な例や言葉を使うことで、技能の定着を図る。</p>
図画工作	<p>○児童一人一人が自らのイメージをもちながら造形的な創作活動に取り組む力を付ける。</p> <p>○鑑賞活動を通して、思いやりの心をもち、お互いを認め合う力を付ける。</p> <p>○道具を正しく扱う技能を身に付ける。</p>	<p>・ねらいを明確にした授業を通して、自らのイメージをもちながら造形的な創作活動に取り組むことの大切さを児童に伝え、一人一人の表現に丁寧に声掛けをする。</p> <p>・互いの作品を鑑賞し、自分や友だちの作品のよさや面白さ、一人一人の思いや表現の違いを感じ取る鑑賞の授業に取り組む。</p> <p>・道具・機械の正しく安全な使い方について、図や掲示物などで説明を工夫し、繰り返し指導する。</p>
家庭	<p>○自分の生活を見直し、改善点を見付け、環境や資源に配慮した生活の工夫を送ろうとする力を付ける。</p> <p>○調理や裁縫における基本的な技能を身に付ける。</p>	<p>・裁縫や調理では、つまずきやすい箇所についてタブレット PC や電子黒板を活用して細かい動きを見せたり動画などを使って手順を確認したりして、技能の差を補ったり、向上させたりする工夫を行う。</p> <p>・SDGsを自分事として捉えていけるよう、調理や裁縫の授業でも環境や資源に配慮する意識をもたせながら取り組ませていく。</p> <p>・調理実習や裁縫、洗濯、掃除などの実践的、体験的な活動を行い、繰り返し取り組めるように家庭と連携していく。</p>
体育	<p>○各種運動の特性に応じた基本的な動きや行い方を理解し、体を上手に動かす力を付ける。</p> <p>○自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝える力を付ける。</p>	<p>・「1時間2教材」の授業を取り入れ、様々な体の部位を動かす運動の場を設定し、一定期間その単元を継続することで技能を高める。</p> <p>・苦手意識のある児童も自己の課題に主体的に取り組めるようにタブレット PC 自身の動きを撮影し、試す、確かめる、振り返る活動を行う。</p> <p>・課題解決の場面では、自己の課題に気付けるように工夫した学習カードを取り入れる。また、学んだ知識を活用し、他者と教え合い、伝える時間を設ける。</p>
外国語・外国語活動	<p>○日本語と外国語との違いに気づき、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。</p> <p>○主体的に自分の考えや気持ちを英語を使いながら、伝え合おうとする態度を養う。</p>	<p>・間違えを恐れず英語で表現していく姿勢を大切に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などの設定を明確にした言語活動を行う。</p> <p>・主体的に学習する学習方法を身に付けさせるために単元の終末を示し、児童が見通しをもちながら学習を進めるようにする。</p> <p>・児童が異文化への興味・関心が高まるよう、ALT と連携しながら、学習を進める。</p>